人間関係講座（グループ）第71回［秋］

-グループの中での人間関係の理解のために- 基礎コース

担当者	中村　和彦（南山大学人文学部心理人間学科准教授） 大塚　弥生（南山大学総合政策部准教授））
概要	この講座は、「体験学習」という方法を用いて、グループの人間関係について学んでいくものです。ラボラトリー方式の体験学習の入門講座として設定しています。１つの講座は２日間のプログラムで構成しています。 　私たちは、会社や組織、家族や仲間関係など、常にグループの中に身を置いています。「グループの中の人間関係は複雑で難しいです」ということをよく聞きます。その理由の１つは、異なる欲求を持つ個人が関る場合、人数が多くなるほど、複雑になり難しくなることでしょう。また、グループで何らかの仕事や課題に取り組む場合は、話や課題の内容（コンテント）に夢中になり、他者の気持ちやお互いの関係（プロセス）に目が向けられず、いつの間にかお互いの思いにズレが生じることも理由の１つだと思われます。 　この講座は、以下の学習目標に向けて実施します。 　①グループの中で他者と関る自分の特徴に気づく 　②「コンテント」と「プロセス」とは何かを理解する 　③グループの中での人間関係（グループ・プロセス）に目を向ける重要性に気づく 　この講座では、ラボラトリー方式の体験学習を用いた実習（典型的な実習）、グループに関する理論の小講義、によって学習を深めていきます。グループの人間関係について理解を深めたいという方、ラボラトリー方式の体験学習について知りたい方など、さまざまな方にお勧めです。 　なお、この講座（または過去の人間関係講座＜グループ＞）を終了された方を対象に、本年度からグループの人間関係をさらに深く学ぶための「グループ・プロセス応用講座」を開設します。（詳しくはこちらをご覧下さい）
日程	2007年11月17日（土）10：00～18：00、11月18日（日）9：00～17：00
定員	各32名
会場	南山大学　Ｄ棟
受講料	11,200円 （税込）
講座報告 （アンケートより）	・プロセスを見ることの大切さ、そこに多くの気づきがあることをあらためて実感しました。日常生活でも、もっと もっとプロセスを大切にしていこうと思います。 ・普段はまったく関わらないような人たちからの反応を受け取れて、いろいろなことを実感できた。 ・グループは生き物であることが、体験的にも理論的にもわかりかけたこと。 ・昨年までは多くのワークを行っていたということで、それを体験できなかったことは少し残念だが、本来はワークの体験が目的ではないので、グループの人間関係という意味では満足しています。特にGPでは様々な出来事がグループの中で置き、それを体験できるので単なるワークより気づきが深いと思いました。 ・グループとのかかわりから、すばらしいグループをつくることができた。実社会ではそううまくいかないと思うがそれでもひとつの理想グループをつくりあげる体験を得たのは大きな収穫だった。